

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500204		
法人名	社会福祉法人 奥州市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームじゅあんの園 ゆきつばき棟		
所在地	奥州市胆沢区南都田字石行30-1		
自己評価作成日	平成26年10月10日	評価結果市町村受理日	平成27年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0391500204-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0391500204-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年12月1日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は夏祭りや避難訓練等にて、地域の方々の参加、協力を依頼したり、毎月傾聴ボランティアの訪問等、地域やボランティアの方々との交流を持つ事によって、入所者が刺激を受け、張り合いを持つ事ができるようにしている。また、外に出たがらない入居者に対して、外出し、他者との交流が図られるよう力を入れている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・運営推進会議の委員の働きかけで、火災避難訓練に地域の方々の参加が得られたり、傾聴ボランティアを導入したり、また、地域の行事に積極的に参加する等、地域との交流に努力され、日常的交流が図られてきている。  
・職員は、食事は利用者の力の発揮や職員との関係づくりの貴重な機会であり、暮らし全体の中で重要な位置にある事を十分理解し、献立には利用者の好みを取り入れ、食材の買物から、調理、後片付けなど利用者個々の力を活かしながら一緒に行なっている。また、利用者と同じ食卓で、同じものを楽しんで食べることを大切にしている。  
・事業所は人材の育成に力を入れており、また職員も自らの資質の向上に努力しており、資格取得の際には、経済的支援を行っている。  
・医療・福祉・保健等関係機関の連携が緊密な地域で、安心してサービスが受けられている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が変更になっている事がわからず共有が出来ていない	奥州市社協では、平成26年4月より介護サービス事業所の基本理念を「優しくあり」「温かくあれ」「そして共に笑顔であれ」と定め、当事業所もそれに沿って実践に努めている。今後、グループホームじゅあんの園の独自の理念を作りたいと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、敬老会に招待したり、消防訓練等で地域の方々の協力を頂いて実施してきた。地域の方々が来訪する事により、馴染みの関係が作られるようにしている	散歩の際、地域の方々と会話したり、隣りの授産施設に資源ごみを運んだり、文化創造センターでのイベント等に参加している。また、事業所主催の夏祭りや避難訓練など、地域の方々の参加と協力が得られており、日常的に交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあいサロンに出向き、健康講座で認知症の理解や支援を講話という形で行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に棟から参加する事が無いが報告書にて内容を把握している	運営推進会議には、利用者、家族、区長、ボランティア協議会長、消防署胆沢分署長、民生児童委員、協力病院事務長、福祉知識経験者、行政が委員として参加し、日常活動や避難訓練の報告について、意見・感想が述べられ、活発な会議運営がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員として委嘱しており、会議等で施設等の実情を報告し助言を頂いている。また、運営上での疑問点等を直接電話にて確認している	市の担当課課長補佐が運営推進会議に委員として参加しており、事業所の実情や利用者の状況について把握して頂いている。また、制度等の不明な点については、随時、直接窓口に出向いて、担当職員に相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にならない様職員一人ひとりが利用者の行動を把握しながら対応しているが、危険性がある利用者にはセンサーマットやマットのみを使用する場合がある。家族にきちんと説明し理解を頂いている	身体拘束については、言葉の拘束にも配慮し、日頃から職員と確認し合い、明るく開放的に生活できるように努力している。玄関は24時間施錠していない。ふらつきがあり立ち上がりで転倒する利用者については、見守りを強化し、家族の了解を得てセンサーマットを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為の内容を掲示し職員全員で確認周知している		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームじゅあんの園(ゆきつばき棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加する機会が無いため理解できていない部分もある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族や本人への説明を行い理解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所した時に日々の状態等を伝え、意見や要望を聴くようにしている	家族とは、面会時や定期通院の送迎時、運営会議等に要望を聞いている。衣類の整理整頓ができなくなって、備え付けのタンスは中が見えないため、クリアケースを(衣装用)持ち込んでよいか等、要望された内容について改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見を出しているが反映には至っていない	グループホーム(あじさい・ゆきつばき)、隣接するデイサービス3か所合同の職員会議(月1回)、あじさい・ゆきつばきそれぞれの評価会議(月1回)を通して、職員の意見を聞いている。会議では、ケアに関して職員が共有しているという事柄等が話されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度から勤務体制が変わり、日々の仕事に追われ疲れが取れない状況である。時間のゆとりができずやりがいを持って仕事をする事ができない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場にて直接指導するがなかなか理解できるまで時間がかかる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等に参加する機会が少ないため交流等持てない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申込後、本人と面談し、心身の状態の把握や本人の要望等を聴いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所者一人ひとりに担当職員を定め、家族等と綿密に連絡を行い、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所1か月は特に本人の状態把握に努め、必要なサービスを抽出するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者の認知が進行しており、理解できなくなってきたことから、以前は一緒に行っていた事も出来なくなってきた		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族等と常に連絡を取り合っている。来所時には家族と会話ができる場を作りゆっくり会話ができるよう対応している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が来所時に他の入居者をも巻き込みながら会話をしたりする場面を作る事で馴染みの関係が作られるようにしている	家族や親戚、地域の友人、また、遠方に住んでいる家族も、定期通院に付き添うため来所する等、面会者が多い。自室で面会したり、他利用者へ配慮し面談室に案内したり、面会者には職員がお茶を出す等支援している。また、散歩の時に自宅の前を通り、近所の方と話したりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	被害妄想が強い入居者には席を替えたり、職員が間に入り、入居者同士の関係性が上手くいくよう個別に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後は家族との連絡は取れていない。特養入所した際、施設職員からの連絡がある程度である		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時や居室にいる際、声掛けをし本人の意向等を聴くようにしている	そろそろ紅葉見物がいいな、去年はダムに行ったな等、散歩しながらの会話から意向を酌み取ったり、園の畑に草が生えていることに気付き、草取りをはじめた方と一緒に草取る等のタイムリーな支援をしたり、意向に沿うよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みのものを持参されたり、本人の体調を観察しながら畑作り等へ促したり、毎月の評価会議にて個々の入居者の状態等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を行い、朝夕の申し送りにて1日の状況等を職員間で共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の評価会議にて個々の入居者の状況等を職員より意見を求め介護計画に反映し、職員間で統一した介護が出来るよう努力をしている	各棟毎の評価会議で、日々のミーティングの記録や連絡ノート(気付きを共有)、個別の支援経過記録等を参考にし、利用者本人や家族の思いや意向を、職員全員でモニタリング、アセスメントを行い介護計画を作成している。計画は、家族や本人に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や申し送りノートを作り職員間で情報の共有を図っている。また、ミーティング等で個々の入居者の状況等を話し合い、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスや同敷地内にあるデイサービス利用者との交流等を図っている		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームじゅあんの園(ゆきつばき棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域では農家の方々が多く、自家製の野菜を頂いたり、農家へ収穫に出かけたり、楽しみが持てるよう工夫をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族の対応にて受診を行っているが、家族の都合がつかない時は家族の理解を得て職員が対応している。また、日々の状態について変化がみられる時には状態等を書面にて医師に情報提供をしている	医療機関の受診は、原則、家族が行っており、受診後に家族から医師の指示を確認している。また、緊急時や家族が不都合な場合は、家族の理解を得て受診し、結果について家族に報告している。受診時は、医師にホームでの状況を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子や状態に変化があれば看護師に報告し指示を頂き対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合、病院との連携を図る為に面会や看護師等と話し、情報提供している。また、今年度より訪問診療や訪問歯科診療の受け入れが出来るようになり対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の高齢化に向け取り組みが必要と思われるが現段階ではまだ研修等も行われておらず、未計画となっている	入居申込時、重度化に係る指針を家族等に説明し、同意を得ている。これまで、看取りの経験は無い。重度化した利用者については、家族、担当医師と相談し、訪問診療を受ける等、医療との連携を図りながら対応することとしている。また、緊急時の対応マニュアルを作成したいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人職員もおり研修等が不十分である為職員全員が対応できるまでに至っていない。今後は職員全員が対応出来るよう取り組みが必要と思っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度初めて地域の方々と交えた防災訓練を行う事ができ、地域の協力体制が作られている	年2回、防災訓練を行っている。消防署、業者立会により、夜間想定訓練を実施している。推進会議委員(区長)が、近所の方の希望を募り、7名に参加協力頂いた。訓練終了後、参加者の意見で車椅子の練習を行っている。	今後も、地域の方々の協力を得て訓練を実施していただきたい。また、今回の夜間想定訓練の指導や反省を検討し、実際の夜間の訓練を工夫し、実施されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格等を把握し本人に解りやすい言葉で話しかけたり、プライバシーを尊重した対応を心掛けている	利用者の体調や状態に応じ、耳元で話しかけたり、丁寧な言葉遣いで声掛けをしている。入浴については、プライバシーに配慮し、個室にしている。トイレ誘導についても、配慮した声掛けをしているが、自分からトイレに行きたいという方もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に意向を聴き、意向に沿うよう対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が誘導していることが多く、自発的な行動には対応できていない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の着替えや整容等見守りや声掛けをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の量や食形態を本人の状態等に合わせ個別に提供している。手伝いが出来る利用者には手伝っていただいている	献立は、各棟毎に利用者の好みを取り入れ、職員がたてており、本部の栄養士の指導助言を得ている。食材の買い出し、調理、後片付け等、利用者の能力に応じ、職員と一緒にしている。また、職員も、同じ食事を同じ食卓で食べている。機能低下しても、口から摂取できるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日水分量や食事摂取量の記録を取り、水分が足りない方へは声掛けをしたり、常に一人ひとりの状態把握をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の口腔体操を行い、食後は口腔ケアを毎回行っている。自分で出来る方には歯磨きをするよう声掛けし見守りをしている		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームじゅあんの園(ゆきつばき棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導を促し出来るだけトイレにて排泄出来るよう対応している	排泄チェック表により排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。また、表情や動作で感知し、トイレに誘導し失禁防止に努めている。リハビリパンツが必要になってきているが、尿取りパットを使用し、失禁にも対応しながら、布パンツで居たいという本人の意向に沿ったケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄チェックを行い、便秘であれば水分を促したり、ビタブレーや食物繊維が多く取れるよう食材を変更したり、運動をしたり個々の状態に応じた取り組みを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午前中であるが入浴を楽しめるよう入浴剤を入れ温泉気分を出せるよう工夫をしている	夏期は週3回、冬期は週2回入浴している。異性の介助を嫌がる方には、同性介助になるよう配慮している。入浴しない日は足浴をしている。清拭には応じるが、入浴は拒否する利用者への関わりを様々工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	強制することなく、眠くなったら居室へ誘導したり、ソファで寝たい方がいればソファで休んで頂いたり、眠くない方はキッチン前にて職員と会話をしたり、安心して良く眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、職員がきちんと把握出来るよう申し送りノートに記入し、情報共有出来るようにしている。服薬の際には本人に手渡しをする前に職員がきちんと確認する様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の出来る事を見出し、洗濯物をたたんで頂いたり、食器洗いや後片付けを手伝って頂いたり、無理なく出来るよう促している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時は近隣を散歩したり、イベント等があれば出かけ地域の交流が出来るよう支援している	隣接する事業所合同でのドライブは、春の花見・秋の紅葉・交流館見学の3回実施している。天気の良い日は、園庭でお茶会をしたり、散歩したりしている。家族と一緒に買物や外食したり、定期的な通院も外出の機会となっている。	



岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームじゅあんの園(ゆきつばき棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での現金所持は問題発生の原因になる可能性が高い為行っていない。現在は施設で個々に金銭を預かっているが今後は必要時に家族に連絡しお金を持ってきていただく方針で考えている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば個別に対応している。月1～2回手書きを楽しみにされている入居者もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに手作りで作品を作り装飾して季節感を味わえるよう工夫をしている	共有のホールには、利用者と職員が一緒に作ったクリスマスの飾り付けがされている。ゆったりとした空間には、テーブル、ソファが配置され、時々食卓の位置を変えたり、席替えをしたりしている。館内は、温風ヒーター、空調、加湿器で適切な環境が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの位置を替えたり、椅子の位置を替えたり、個々の居場所が作れるよう工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持参して頂き、居室内に飾ったり工夫をしている	洋ダンス、小箏笛、床頭台、洗面台が備えてある。テレビを持ち込んでいる方、位牌を置いている方もいる。室内は、家族や本人が自由にレイアウトを替えている。家族が持ってきた花、自作のカレンダー、習字、塗り絵等飾り、居心地良くしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ歩いていただく様子引き誘導をしたり、歩行に危険がある場合は車椅子を利用したり、安全に過ごす事が出来るよう対応している		